



「PTAがつなぐ紙資源のリサイクル推進活動」



駒ヶ根市立赤穂南小学校PTA

学校紹介

1994年（平成6年）4月 駒ヶ根市立赤穂小学校より、分校開校
赤穂小学校の大規模校解消と赤穂地区の小学校児童数の均等化を図るとともに、理想的な環境の中で児童を育成することを願い、平成6年南割区・福岡区・市場割区・上赤須区・吉瀬区を通学区とする赤穂南小学校が現在の場所に設立され、令和5年に30周年を迎えた。

PTA組織

会長（1名） 副会長（2名）
幹事（2名） 監事（2名） 監査（2名）
郊外指導部 保険厚生部 研究修養・環境整備部
各学年PTA



PTA運営状況

PTA総会（4月・2月） アルミ缶回収（8月） 会報発行（年1回）
校内整備作業（春・秋） 各学年企画 など

1. 研究テーマ

「PTAがつなぐ紙資源のリサイクル推進活動」

2. 研究テーマ設定の趣旨

近年、駒ヶ根市内で可燃ごみが増えており、駒ヶ根市生活環境課でも紙ごみの資源化を推進しているが、なかなか進まない現状がある。そこで、学校・家庭・地域が連携して取り組む活動として、子ども・大人がみんなで取り組む橋渡しをPTAが担うことができるのではないかと考えた。また、子どもたちの環境教育にもつながることで、持続可能な社会形成を将来にむけて考えるきっかけになると考えた。

3. 研究内容

（1）実践内容

- ① PTA予算から各家庭で紙資源を集める紙袋とラベルを購入する。
- ② 小学校の児童会で回収袋にラベルを貼る。
- ③ 学校を通じて家庭に袋と啓発活動の趣旨と調査アンケートを配布する。
- ④ 各家庭で出た紙資源を地区の資源回収日に出す。
- ⑤ 期間において再度配布し、意識調査アンケートをとる。
- ⑥ 活動の広報や市役所・他の学校への情報提供などを行い、活動を一般化する。

（2）研究推進の組織

赤穂南小学校PTA
赤穂南小学校児童会
駒ヶ根市南割区 環境美化推進連合組合

（3）研究推進の日程

R5年度 PTAが主体となり配布とアンケート調査を行う

6月	回収袋・ラベル購入		
7月	各家庭に回収袋を配布（地区・学校）	アンケート調査（学校）	
8月	資源回収		
12月	各家庭に回収袋を配布	アンケート調査	広報活動
3月	各家庭に回収袋を配布	アンケート調査	広報活動

R6年度 PTAで回収袋とラベル用紙を購入し児童主体で活動を行う

7月 児童会 整備委員会による回収袋配布 広報活動

9月 回収袋配布 広報活動アンケート調査

10月 研究成果のとりまとめ

(4) 実施の様子



配布した紙袋

紙袋Lサイズを使用

袋一杯に紙を入れると、約2kg程入る。

- ・可燃ごみとしてリサイクルが進んでいないお菓子の箱・包装紙などを対象に啓発活動を行った。
- ・1年目は学期末の休み前に配布。
- ・家庭での時間が増えるお盆、年末に多く生じるお菓子の包装紙や、年度末の片付けて生じる紙ごみの資源化をねらって取り組んだ。
- ・南割区での配布は夏のお盆前に配布し、全戸での取り組みを呼び掛けた。



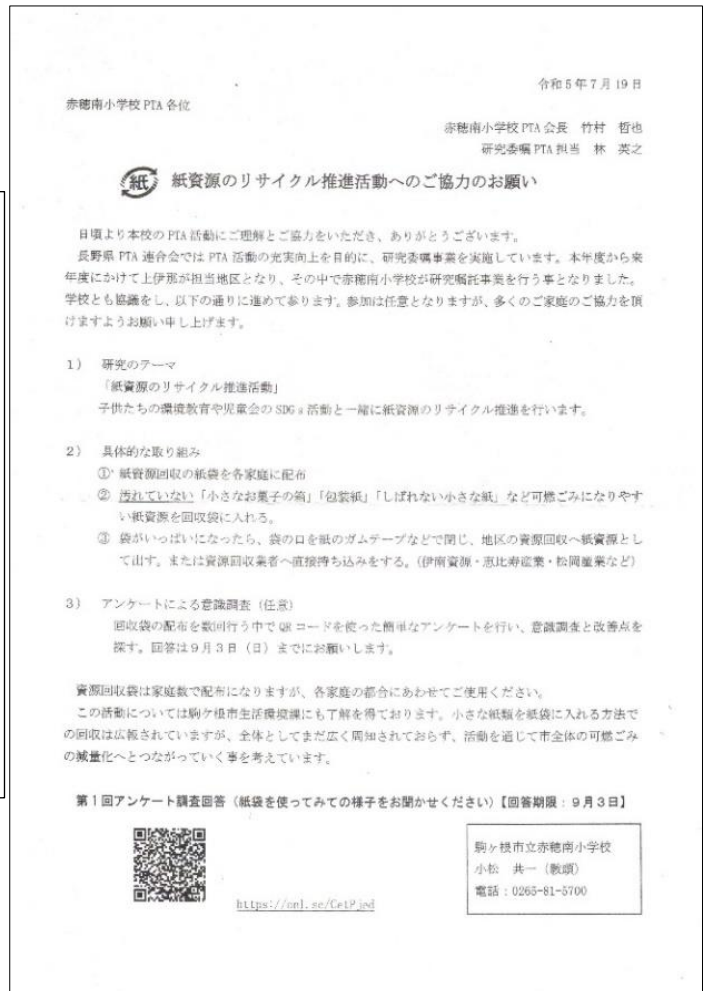
- ・油污れがあるものは資源化に向かないため、注意書きを付けて呼びかける。
- ・回収時に中身が出ないように、袋の口を閉じる事を呼び掛ける。

(5) アンケート調査と結果

「紙資源のリサイクル推進活動へのご協力をお願い」として、お便りと紙袋を全家庭に配布し、各家庭での取り組みをお願いした。その様子をアンケートにより調査する。

小さなお菓子の箱、包装紙、縛れない小さな紙など、可燃ごみになりやすいものを資源として回収する。

駒ヶ根市生活環境課の了解を得ており、この活動を通して、可燃ごみの減量化をし、紙資源のリサイクルへとつなげたい。



アンケート回答

第1回目（回答数14）

1.紙資源の紙袋による回収方法について

- ①知らなかった 28.6% ②知っていた 14.3% ③すでに行っている 57.1%

2.回収用の紙袋について

- ①使いやすい 50% ②普通 35.7% ③使いにくい 14.3%

3.回収袋を設置しての紙資源化意識

- ①良くなった 57.1% ②変わらない 42.9%

4.回収袋はどのくらいで一杯になりますか？（見込みでも可）

- ①1週間以内 7.1% ②1～2週間 50% ③1か月 42.9%

5.回収場所について

- ①地区の資源回収 42.9% ②資源センター57.1% ③出す場所がわからない 0%
④学校での回収を希望（現在は行っていません）0%

6.今回の紙資源のリサイクル推進活動の取り組みについて、ご意見や感想があればお書きください。（自由記述）

- ・紙袋を配布していただいて助かった。
- ・可燃ゴミを減らすことは大賛成です。学校でもペーパーレスにどんどん取り組んでほしい。
- ・名前の書いてある教科書などは、資源として出しにくいと感じる。
- ・地区の回収日を忘れてしまい、燃えるゴミに出していました。今回、久しぶりに回収してみたら、家族も気にしてくれて良いきっかけになった。
- ・紙袋を用意するコストや手間が気になった。今までは家にある紙袋を使っていた。

第2回目（回答数12）

1.紙資源の紙袋による回収方法について

- ①知らなかった 16.7% ②知っていた 50% ③すでに行っている 33.3%

2.回収用の紙袋について回収用の紙袋について

- ①使いやすい 58.3% ②普通 25% ③使いにくい 16.7%

3.回収袋を設置しての紙資源化意識

- ①良くなった 75% ②変わらない 25%

4.回収袋はどのくらいで一杯になりますか？（見込みでも可）

- ①1週間以内 8.3% ②1～2週間 33.3% ③1か月 58.3%

5.回収場所について

- ①地区の資源回収 33.3% ②資源センター58.3%
③出す場所がわからない 0% ④学校での回収を希望（現在は行っていません）8.3%

6.今回の紙資源のリサイクル推進活動の取り組みについて、ご意見や感想があればお書きください。（自由記述）

- ・以前から紙箱のリサイクルを知ってはいましたが、家庭では形も不揃いでまとめるのが難しく、実際にはゴミ箱でした。この紙袋を支給され使い勝手が良く、袋の大きさもかさばらずに丁度良く、空き箱がゴミ箱へ行くこともほぼ無くなりました。もう少し支給してほしい。
- ・取り組みは素晴らしいと思いますが、回収を学校で行うのは筋が違うと思います。学校が啓発活動をするのはわかりますが、そこから先は各自でやるのが本来だと思います。本来は地区や各家庭でやるべきことで学校の負担を増やしてはいけません。
- ・学校に紙のリサイクルボックスを置いてほしい。子どもに少しずつ持たせます。
- ・家での取り組みを継続することで、紙資源の分別を普通に感じられるようになってきました。可燃ゴミの溜まり方が減っている実感があります。

第3回目（回答数0）

アンケートへの回答がありませんでした。

毎回の繰り返しによるマンネリ化や、QRのみの調査で同内容の比較のため内容を変えず行ったせいか、回答を得られなかった。4回目は少しアンケート内容を変え、1年目を踏まえた上で行う。また、返答を再度告知して行う。

第4回目（R6年度1回目）（回答数98）

1.紙資源の各家庭での取り組みについて

- ①普段から取り組んでいる 72.4%
- ②取り組んでいない 15.3%
- ③今後取り組みたいと思っている 12.2%

2.紙資源回収袋について

- ①使いやすい 31.6%
- ②普通 62.2%
- ③使いにくい 6.2%

3.紙資源回収袋の配布により、紙資源リサイクルへの意識変化について

- ①紙資源リサイクルを意識するようになった 34.7%
- ②配布される以前より、紙資源リサイクルを意識していた 54.1%
- ③紙資源リサイクルを意識していない 9.2%
- ④取り組みを知らなかった 2%

4.紙資源のリサイクル推進活動の取り組みについて、ご意見や感想があればお書きください。（自由記述）

- ・お店などで紙袋をもらう機会が減ったので、学校から紙袋を配布して頂くのはありがたい。
- ・（紙袋が）結構家にあるので、取り組みたいと思う。
- ・回収袋を配布されるようになって、紙箱などのリサイクル意識が高まりました。またこの袋の大きさが、家に置いておくにも容量もちょうどいい大きさで、重宝させてもらっています。
- ・紙袋が手元に届くことで、これまで取り組んでいなかった人も取り組むきっかけになると思う。
- ・ダンボールも回収したら良い。
- ・レシート用紙（感熱紙）など、リサイクルできないものについての情報もほしい。
- ・紙資源も現金化出来るくらいなので、学校で年に一度とか回収すれば良い。
- ・1週間で簡単に1袋溜まってしまいます。そのため、紙資源の回収が毎週あるといいなと感じています。回収方法についてもご検討いただけると幸いです。

4. 研究のまとめ

- ・アンケート調査の項目や回答数が少ないなどの問題もありますが、取り組みに対しては概ね良い評価を頂けたと思う。
- ・「紙資源化を知らなかった」という回答が回数を重ねるごとに減少し、紙資源のリサイクル意識向上を目的とする点においては、良い活動ができた。
- ・アンケート以外でも、もう少し紙袋が欲しいといった声や、家でもう少し大きな袋でやっている事を直接お聞きすることもあり、取り組みに対する関心は多く、アンケート回答以外にも話を聞くことができた。
- ・2年目は児童会の活動へと移行し、環境教育ということを知識ではなく、実践を持って行えるようにつながられたことが良かった。
- ・PTA活動で多くの労力と時間を割くことに批判が出てしまう流れの中で、最小限の人数で行うコンパクトな活動としてできたことは意義があったと思う。
- ・学校の取り組みをさらに広げ、行政から紙資源回収袋を配るなど地域活動へ広げることで、持続可能な社会へつなげていく事が次のステップへつながると思う。